

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)		
所在地	千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	令和2年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	令和3年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂けるよう四季折々の行事を多く提供させていただいている。又、一人ひとりの力を活かし、皆で協力し合い生活していただいている。家族、地域の方々と支え合いながら暮らしていける、温かみのあるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社の理念である「仲間を大切に作るチーム」を職員全体で共有し、疑問点などは積極的に発信して職員間で早期に解決することでチームワークを高めていけるように努めています。今年度は新規の利用者の受け入れが続き、利用者が事故なく安全に生活が送れるように全体で意識高く取り組みました。また年度当初からのコロナ禍の影響で例年取り組んでいたボランティアの受け入れや地域行事への参加は自粛せざるを得ない状況となりました。しかしながらその分ホーム内で楽しめる活動を職員間で考え、各種レク活動の充実化や共同で装飾品づくりに取り組むことで、楽しみの幅の拡充につなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人の役に立つ事を喜びと感じ、会社の理念となっている「仲間を大切にするチーム」を実践に努めている。	会社の理念である「仲間を大切にするチーム」を職員全体で共有し、疑問に感じたことなどは互いに発信し合い職員間で解決できるように取り組んでいます。職員会議などを活用しながら定期的に理念を確認し全体での理解を深めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体の方に訪問をお願いし、手品、琴、腹話術を披露して頂いていたがコロナ拡大防止の為、中止している。	例年であれば手品や琴、腹話術などの地域のボランティアの訪問を受けるなど、地域の協力を得て運営を進めています。今年度についてはコロナ禍のためボランティアの受け入れなどは止めているため、コロナ禍収束後に再び活動の再開を目指しています。	地域の関係者等と築き上げてきた関係性が希薄化しないように、今できる関わり方を模索し良好な関係が今後も継続できることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護初任者研修の受け入れを行ない認知症、高齢者への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催している。意見、要望等を頂きサービスの向上に繋げられるよう職員にも伝えている。	運営推進会議については今年度はコロナ禍の影響もあり書面開催という形で実施しています。これまで参加頂いていた地域包括支援センター、民生委員、家族の方にホームで検討した内容を送付し、それに基づいて意見や要望を収集しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、定期的に待機者情報を報告し、事故等が有った時には、速やかに報告している。	運営上、相談事などが生じた際には市の担当課へ連絡を入れて指示を仰ぐことができる体制としています。また市からの情報については都度メールで配信され、必要な情報を収集することもできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務中、拘束に対しての発言が、職員の間でも聞かれる事が有り、常に意識したケアに取り組んでいる。	「身体的拘束等の適正化のための指針」に基づき、身体的拘束適正化・虐待防止委員会を事業所の全体会議の中で実施し実施状況を定期的に確認しています。現状身体拘束につながる事例はなく全体で注意深く取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ない、虐待防止に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する社内研修を実施し、その内容、活用法を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り、細かく説明している。特に起こりうる事故等のリスク、看取り、退去解約は十分に説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催や介護相談員の来訪にて利用者、家族からの意見、要望を伺える様にしている。	家族からの意向や要望等については電話連絡時や面会に訪れた際に直接確認しています。意見や要望がある場合には気軽に申し出て欲しい旨を家族に伝えているほか、外部の苦情窓口についても重要事項説明書内に明示し利用契約時に説明しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センターでの全体会議、本社グループ間での協議会にて、随時提案し、検討している。	管理者は日頃から職員からの意見などを聞く機会を設けており、職員が気軽に意見などを表出できる環境を築いています。ホーム合同ミーティングの際にも職員の意見などを確認し、支援や業務の見直しにつなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、契約更改等で随時、面談を定期的に行ない、各自の状況把握に努めており、向上心を持って働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内ではOJT研修を随時実施している。そよ風グループホームとして、協議会を開催しており、各センターでの報告、検討会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市のグループホームの部会が行われている。出来るだけ参加をして情報共有を図っていきたい。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人に会いお話をさせて頂き、ケアニーズの把握に努め、安心して利用頂ける様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯やこれからの要望を伺い、センターとして、家族の方と一緒にどのような対応が出来るか話し合いを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等、把握し必要とする支援に繋がられる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を共に行ない、感謝の気持ちを伝えあえる関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を伝え、情報共有に努め協力関係を築ける様、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問理美容を利用しない利用者は馴染みの美容院に通う等、家族の協力も得ながら対応している。	馴染みの美容室に出かけたり、友人の来訪の受け入れなどで馴染みの関係が途切れないように支援しています。今年度はコロナ禍のため馴染みの場所への外出等は難しいですが、手紙のやり取りなどを通して関係性の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士間の関係性も踏まえながら、職員が媒体となって交流が図れる様、支援している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から、葉書きを頂き連絡を取っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いを汲み取り、家族にも話を伺いながら検討している。	ケアプランの作成および更新時はアセスメントを実施して利用者の現状や課題等を抽出しています。アセスメントでは利用者の日常生活動作状況のほか、本人の趣味や特技、嗜好なども確認しケアプランへ反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人家族からの情報を頂いている。又、入居後も会話や関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況を、記録に残し、申し送り等で現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化に応じて家族、職員等で話し合いを行ない、現状に合った介護計画を作成している。	アセスメントで抽出した情報、利用者本人、家族、職員、主治医、看護師等の意見を担当者会議で検討し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランの進捗については更新時にモニタリングで確認し、支援目標の継続、終了を判断しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に日々の様子や状態を記録し職員間で情報共有を行ない、必要に応じて計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い、状況等、把握し必要とする支援に繋げられる様、努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、介護相談員に来所して頂く事で地域情報を取り入れながら楽しんで生活出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受ける方と掛かりつけ医に受診される方とおり、どちらも生活状況を報告させて頂き、適切な医療が受けられる様支援している。	ホーム提携先の医療機関の往診が月2回あり、利用者は必要な医療を定期的に受けることができます。入居前のかかりつけ医を継続することも可能であり、その場合の通院については家族の方に対応を依頼しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化のある時には、看護師に電話連絡相談をし、指示を仰ぐ。必要に合わせて訪問診療を行ない、Drに繋げてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的にお見舞いをさせて頂き、早期退院に向け関係者との情報共有に努め、退院前には退院後のケアについてDrからの説明に家族と同席させて頂き、安心して元の生活に戻る様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診Dr、家族、事業所で今後の方針を話し合いグループホームでは何が出来るかを説明し同意書を頂いている。	ホームでは家族の意向を踏まえ、終末期まで対応する方向性としています。終末期に備え職員研修の実施や利用者の状態変化時にはホームとして指針を作成し、主治医、家族と今後の方針を検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練は行えていない。AED設置に伴い、処置方法の研修を受け、緊急対応時に備えている。緊急時マニュアルは作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行ない、消火、避難誘導の訓練を行なっている。備蓄品に関しても、順次揃えている。	年2回避難訓練を計画して今年度は6月に夜間の大地震想定、11月に火災を想定した避難訓練を実施しています。訓練終了後は防災訓練報告書において、良かった点や問題点、反省点を明確にしています。災害備蓄品も従事揃え災害時に備えています。	

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は敬語対応であるが、状況に応じた和やかな雰囲気の声掛けも大事にしている。	利用者に対して不適切な対応にならないように、声のかけ方は敬語を徹底し、利用者の誇りを損ねることが無い対応を徹底しています。トイレ誘導時や介助中の声かけなどにも配慮し利用者のプライバシーや羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で表情を読み取り声掛けを行ない、思いを聞き取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等センターの都合で決めている事も少ないが、その方のペースに合わせ、お話を伺いながら臨機応変に支援出来る様、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアセットなど今まで行なってきた事を継続して行える様見守り、支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化に伴い、調理、配膳等を職員と一緒にこなす事が困難になってはきているが可能な方には支援出来る様、努めている。	食事の配膳や下膳、食後の食器拭きなどは利用者にも声をかけできる限り利用者の力が発揮できるように努めています。クリスマスにはケーキ作りを一緒に行ったり、お正月におせち料理を提供等を通して食の楽しみに繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態等、その方の状態に合わせた提供を行なっている。変化が見られた際は状況に合わせて対応している。毎食の食事量、水分量も記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施、清潔保持に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック票に記録し、状況を把握しながらトイレでの排泄に繋げられる様、支援している。	排泄については利用者一人ひとりの排泄のパターンに合わせて定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。排泄後においては所定の排泄表に排泄状況を記録しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを良くする為に、ヨーグルト、ヤクルト等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	センターの都合で支援させて頂いている事も少なくないが、音楽を流したり楽しみながら入浴出来る様、支援している。	入浴に関しては利用者の体調やペースに合わせて週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員も介助について利用者の状態に合わせて必要な介助を行うと共に事故なく安全な入浴に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて、日中、30分～1時間程度の休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ケースファイルに服薬指示書をファイリングしており、服薬変更の際には必ず申し送りを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事で役割を持ち、張り合いある生活を送れる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な家族との外出支援を行なっている。	コロナ禍以前は小グループに分かれての初詣に出かけたり、個別対応で買い物などにお連れして戸外に出かけられるように支援していました。今年度はコロナ禍のため買い物など外出は自粛しており、その分ホーム内で楽しめる取り組みを増やしています。	

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事により、安心感を得られる方もいる為、家族と相談の上、小銭を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙が来た時には、返事が出せる様、声掛け対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節に応じた制作物等、掲示し温かみある居心地の良い空間を作っている。	利用者と一緒に作品作りに取り組み皆で作った作品を掲示して季節感が感じられるように工夫しています。日々の掃除を徹底し清潔保持に努め、感染予防対策としてテーブルや手すり、床なども定期的に消毒し感染症の発生を防いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	余暇時間は、お好きな場所にて過ごせる様、見守りを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、自宅で使い慣れた物を置き、安心して生活出来る空間を本人や家族と相談している。	居室内は日々の掃除により衛生面に配慮しているほか、これまで使い慣れた愛用品の持ち込みを可能とし、家具類のレイアウトについても本人や家族の希望に沿って配置することで居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内に手すりを付け、歩行の際にも危険となる物は極力排除し、安全で自立した生活が送れる様、支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)		
所在地	千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	令和2年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和3年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、ご家族様との篤い信頼関係を築くことで落ち着きがあり、穏やかな雰囲気施設の自負しております。ご利用者様に合わせた手厚い支援を心がけると共に精神的にも深く寄り添い、日々、安心して過ごして頂ける様に努めております。ご利用者様の介護度も上がってきている中、ご家族様からの願いに応えるべく職員一同努力してまいります。又、各ユニットごとと区別するのでは無く一つのホームとして喜び、楽しみの共有を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社の理念である「仲間を大切に作るチーム」を職員全体で共有し、疑問点などは積極的に発信して職員間で早期に解決することでチームワークを高めていけるように努めています。今年度は新規の利用者の受け入れが続き、利用者が事故なく安全に生活が送れるように全体で意識高く取り組みました。また年度当初からのコロナ禍の影響で例年取り組んでいたボランティアの受け入れや地域行事への参加は自粛せざるを得ない状況となりました。しかしながらその分ホーム内で楽しめる活動を職員間で考え、各種レク活動の充実化や共同で装飾品づくりに取り組むことで、楽しみの幅の拡充につなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人の役に立つ事を喜びと感じ、会社の理念となっている「仲間を大切にするチーム」を実践に努めている。	会社の理念である「仲間を大切にするチーム」を職員全体で共有し、疑問に感じたことなどは互いに発信し合い職員間で解決できるように取り組んでいます。職員会議などを活用しながら定期的に理念を確認し全体での理解を深めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体の方に訪問をお願いし、手品、琴、腹話術を披露して頂いていたが、現在はコロナ拡大防止の為、中止している。	例年であれば手品や琴、腹話術などの地域のボランティアの訪問を受けるなど、地域の協力を得て運営を進めています。今年度についてはコロナ禍のためボランティアの受け入れなどは止めているため、コロナ禍収束後に再び活動の再開を目指しています。	地域の関係者等と築き上げてきた関係性が希薄化しないように、今できる関わり方を模索し良好な関係が今後も継続できることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護初任者研修等の受け入れを行ない認知症、高齢者への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催(施設長、管理者、職員、ご家族様、民生委員、介護職員、地域包括支援センター職員)が参加されご意見、ご要望等を頂きサービスの向上に繋げられる様、努めている。	運営推進会議については今年度はコロナ禍の影響もあり書面開催という形で実施しています。これまで参加頂いていた地域包括支援センター、民生委員、家族の方にホームで検討した内容を送付し、それに基づいて意見や要望を収集しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、待機者情報を報告し、事故等があった時には、速やかに報告を行っている。	運営上、相談事などが生じた際には市の担当課へ連絡を入れて指示を仰ぐことができる体制としています。また市からの情報については都度メールで配信され、必要な情報を収集することもできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の利用者について心身の状態を正確にアセスメントし身体拘束を必要としない状態を作り出す方向を追及している。又、ミーティング時勉強会を開き不適切な対応に繋がらないよう取り組んでいる。	「身体的拘束等の適正化のための指針」に基づき、身体的拘束適正化・虐待防止委員会を事業所の全体会議の中で実施し実施状況を定期的に確認しています。現状身体拘束につながる事例はなく全体で注意深く取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関する勉強会を行っており虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が居る為、そのケースを通して制度の理解に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずケアや費用等の重要事項を十分に説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情に対しては管理者が窓口となり対応している。意見や要望は全職員が聞くようにしており聞いた場合は速やかに管理者に報告するようになっている。	家族からの意向や要望等については電話連絡時や面会に訪れた際に直接確認しています。意見や要望がある場合には気軽に申し出て欲しい旨を家族に伝えているほか、外部の苦情窓口についても重要事項説明書内に明示し利用契約時に説明しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム合同ミーティングを開き意見を出し合い話し合っている。職員が気軽に意見を出せる環境作りを心掛けている。また、外部の研修会にも参加してもらい意欲の向上、介護の質の向上を図っている。	管理者は日頃から職員からの意見などを聞く機会を設けており、職員が気軽に意見などを表出できる環境を築いています。ホーム合同ミーティングの際にも職員の意見などを確認し、支援や業務の見直しにつなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の都合等を考慮し、介護に支障のない範囲で希望に応じた勤務体制にした。人事考課、契約更改等で面談を行ない、向上心を持って働ける環境作りを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内ではOJT研修を実施している。毎月グループホーム協議会を開催しており、各センターでの報告を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1度、八千代市グループホーム部会が開催されている。今後は出来る限り参加をし同業者との交流を図りサービスの質の向上に努めたい。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と話しをする他、センター方式のアセスメントシートを利用し生活歴の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センターを見学して頂き詳しい説明をさせて頂くと共に家族の方が困っている事や要望等を伺い理解し受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査を基に現状で何が一番必要なのを見極め、相談内容を確認し、話し合う事で、信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋がられるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護をしてあげる、介護をされている」という一方的な関係ではなく穏やかな日常が送れるよう努める。感謝の気持ちを伝える関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者のご様子等をこまめに報告し共有するようにしている。ご意見をいただいたり、協力をお願いする事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会について制限することなく積極的に受け入れるようにしている。	馴染みの美容室に出かけたり、友人の来訪の受け入れなどで馴染みの関係が途切れないように支援しています。今年度はコロナ禍のため馴染みの場所への外出等は難しいですが、手紙のやり取りなどを通して関係性の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話をそれとなく観察し、職員間で情報の共有をしている。職員の介入が過剰にならない様に気を付けている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移る際、当ホームでの生活や介護内容等を伝達し、生活の継続性に配慮するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話しを聞いたり、面会時などにご家族から、ご本人が話されたい事や思い等を伺うようにしている。	ケアプランの作成および更新時はアセスメントを実施して利用者の現状や課題等を抽出しています。アセスメントでは利用者の日常生活動作状況のほか、本人の趣味や特技、嗜好なども確認しケアプランへ反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員と利用者が話しやすい関係を作り、会話の中から生活歴を知る事が出来る様に心掛けている。ご家族からもこれまでの暮らし方等、情報を得てホームでの生活に繋がられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況を、記録に残し、申し送り等で現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、職員が協力しながら作成するようになっている。日々の関わりの中から、ご本人や家族の意見や要望等を伺い反映している。	アセスメントで抽出した情報、利用者本人、家族、職員、主治医、看護師等の意見を担当者会議で検討し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランの進捗については更新時にモニタリングで確認し、支援目標の継続、終了を判断しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の様子や、言葉等を記録している。いつでも、職員が確認出来、申し送りでも伝達し、共有するようにしている。又、介護計画にも活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族と話し合い意向に沿えるように心掛けている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、介護相談員に来所して頂く事で地域情報を取り入れながら安心して生活ができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受ける方とかかりつけ医に受診される方とおり、どちらも生活状況を報告させて頂き、適切な	ホーム提携先の医療機関の往診が月2回あり、利用者は必要な医療を定期的に受けることができます。入居前のかかりつけ医を継続することも可能であり、その場合の通院については家族の方に対応を依頼しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時には訪問看護師、往診先の医師に報告し指示を受けている。後の経過報告も行ないアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中か担当看護師、家族とこまめに連絡を取り、退院前には、担当医より話しを伺い退院後も安心して生活が送れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が見られる場合は家族、医師、訪問看護師と話し合いを行ない同意書を交わしセンターで出来る事、医療の必要性が生じた場合の対応等を十分に説明しながら方針を共有し家族、医師、訪問看護師と連携し対応している。	ホームでは家族の意向を踏まえ、終末期まで対応する方向性としています。終末期に備え職員研修の実施や利用者の状態変化時にはホームとして指針を作成し、主治医、家族と今後の方針を検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの際、勉強会の時間を設け研修している。又、消防の指導による救命救急の講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行なっている。備蓄品に関しても順次備えている。	年2回避難訓練を計画して今年度は6月に夜間の大地震想定、11月に火災を想定した避難訓練を実施しています。訓練終了後は防災訓練報告書において、良かった点や問題点、反省点を明確にしています。災害備蓄品も従事揃え災害時に備えています。	

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は敬語であるが、状況に応じた和やかな声掛けも行なっている。	利用者に対して不適切な対応にならないように、声のかけ方は敬語を徹底し、利用者の誇りを損ねることが無い対応を徹底しています。トイレ誘導時や介助中の声かけなどにも配慮し利用者のプライバシーや羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で表情を読み取り声掛けを行ない、思いを聞き取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの大まかな流れは決まっているが、その中で、一人ひとりの体調や様子に応じた過ごし方が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本、ご本人の意向で決めている。又は、一緒に相談しながら決めるようにしている。好みの化粧品などを家族が購入し、ご本人にお渡ししている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の重度化に伴い、調理、配膳等を職員と一緒にこなす事が難しくなっている。一人ひとりの食事形態を考え美味しく、安全に召し上がって頂ける様に努めている。	食事の配膳や下膳、食後の食器拭きなどは利用者にも声をかけできる限り利用者の力が発揮できるように努めています。クリスマスにはケーキ作りを一緒に行ったり、お正月におせち料理を提供等を通して食の楽しみに繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態(常食・刻み食・ペースト食)の提供をし一日の摂取量を記録に残し問題点等、ミーティングで話し合いより良い支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを行なっている。義歯の利用者は洗浄剤を利用している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人に合った紙パンツやパッドを使用し、出来るだけトイレでの排泄を継続出来る様にしている。一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行なっている。	排泄については利用者一人ひとりの排泄のパターンに合わせて定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。排泄後においては所定の排泄表に排泄状況を記録しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔をチェック表で把握し、牛乳やヨーグルトの提供など十分な水分補給を実施、訪問看護師に腸の動きを確認してもらいアドバイスを頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は決まっているが一人ずつの入浴とし、それぞれのペースで入っていただいている。ご利用者のADLやその日の体調などによって臨機応変に対応出来る様に努めている。	入浴に関しては利用者の体調やペースに合わせて週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員も介助について利用者の状態に合わせて必要な介助を行うと共に事故なく安全な入浴に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動し夜間は良く眠る事が出来る様に支援している。日中のペースも一人ひとりのリズムや体力を大切にし昼寝の時間を設ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を個別にファイルし職員が確認出来るようにしている。自身で確認、職員同士での確認、ご利用者との確認を行ない誤薬が無いように努めている。又、服用出来たかの確認も必ず行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者全員が参加できるレクリエーションはご利用者の状態により困難になりつつあるが簡単な体操を工夫して行なっている。又、天気が良く、暖かい日はベランダに出て日光浴をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応にて買い物や外食へ出かける。	コロナ禍以前は小グループに分かれての初詣に出かけたり、個別対応で買い物などにお連れして戸外に出かけられるように支援していました。今年度はコロナ禍のため買い物など外出は自粛しており、その分ホーム内で楽しめる取り組みを増やしています。	

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常にご利用者が金銭を所持出来る様な対応は行なっていない。買い物等の際に、ご本人に渡し直接支払う場面が持てる様に支援する時が有る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、希望に応じて返信出来る様支援している。又、LINEのビデオ通話を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付け等、ご利用者と一緒に作成した物を掲示している。ご利用者にとって明るく快適な環境になる様に努めている。	利用者と一緒に作品作りに取り組み皆で作った作品を掲示して季節感が感じられるように工夫しています。日々の掃除を徹底し清潔保持に努め、感染予防対策としてテーブルや手すり、床なども定期的に消毒し感染症の発生を防いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	余暇時間は、お好きな場所にて過ごせる様、見守りを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具等、使い慣れた思い出の物を持ち込まれ居心地良く生活出来る様に努めている。	居室内は日々の掃除により衛生面に配慮しているほか、これまで使い慣れた愛用品の持ち込みを可能とし、家具類のレイアウトについても本人や家族の希望に沿って配置することで居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差が無く、手すりを設置している為、移動が行ないやすい環境となっている。トイレの場所を分かりやすいように記載するなど混乱が少なく暮らせる様に配慮している。		